

第2回徳島県高校教育改革推進本部会議報告

主な議事内容

特色ある学校づくり・地域に開かれた学校づくりについて

- 委員 海部地域にはサーフィンをする人が多いので、海部高校で「サーフィン」を前面に出したら、県外からの入学生が増えると思いましたが、それを具体的に話し合う場がなかったので、学校に伝えることができませんでした。「オンリーワンハイスクールパワーアップ事業」のテーマを設定するとき、地域の人々はどう関わっているのですか。
- また、小学校・中学校の場合は、地域に支えられている体験をする場面がたくさんありますが、高校の場合は、地域に支えられている体験をする場面はあるのですか。社会教育施設や社会教育団体との連携により、子供自身が地域の中で育っているということを体感する場面を、どのようにして作っていくのかと思いました。
- 委員 「地域の力を活かしたオンリーワンハイスクール」は、第3期「元気とくしまプロジェクト」のメインテーマになっています。城西高校神山分校では、地元の林業専門家の力を借りて木の伐採をするなど、すでに、各学校で地域の力を活かした取組が行われています。これからは地域の力を借りるだけではなく、学校がその成果を地域に還元していくというような、さらに上のステップを目指していきたいと思います。
- 委員 海部高校の「サーフィン」についてですが、地域の声は聞こえていましたので、ハワイへのサーフィン留学制度の導入などを検討しましたが、受け入れ先の事情もあり、実現できませんでした。また、競技日程が、学校の教育活動に馴染みにくいという実態もありました。
- 委員 小学校の場合は、夜になれば施設を使えると思いますが、高校の場合は部活動などの関係で、使えるスペースの確保が大変難しい状況です。
- 委員 施設を貸すため休日などに教員を配置するについては、代休措置がありません。自由に施設を使っただけにはいきませんので、その勤務に対する割り振りを考えるのは難しい状況です。
- 副本部長 防災の視点からも地域の方々との連携は必要です。また、盲・聾併置の新設校では、特別な支援を必要とする生徒が、近隣にある城南高校の生徒と交流を深め、社会参加や自立を進めるために、地域の方々との連携だけでなく教員も含めた協力が必要であると思います。

本部長 小学校と高校では、蔵書の数などで図書館に大きく違いがあります。学校の財産は地域の宝物にもなるので、子供を含めた地域の方々が、担当の勤務時間内に図書を読覧できるようになればと、個人的に思うことがあります。

また、専門高校には、地域の方々を対象にした開放講座があります。三好高校には、地域の方々が生徒と一緒に授業を受ける取組もあります。学校開放は、学校独自に可能な方法で取り組む必要があるし、それに対する管理職の姿勢も大切だと思います。

学校評議委員の報償費について

委員 去年も意見をいただきましたが、財政的に厳しい状況ですので、一部の委員に負担が偏らないようにご配慮いただけたらと思います。

入学者選抜制度の改善について

委員 新しい入学者選抜制度について十分理解し、適切な進路指導ができるように、中学校の担当者向け説明会等で、きちんと新制度の主旨を説明していきたいと思います。

いじめ・不登校等への対応について

委員 スクールカウンセラーやスクールアドバイザーについてですが、高校でもニーズがあることは十分承知しています。現在、国のモデル事業を活用して、高校にも派遣しています。来年度も国に事業の申請をしていますが、現在、その結果を待っているところです。そこで、小・中学校に派遣しているスクールカウンセラーに、少し余裕のある学校もありますので、そのあたりで高校のサポートができるよう検討をしていきたいと思います。

委員 いじめや不登校の生徒の中には、発達障害などで特別な支援を必要とする生徒の割合が高いと思います。来年度新たに、「ともに学ぶ高校生活応援モデル事業」を実施しますので、高校に特別支援教育支援員を配置したいと思います。

また、平成24年度には、主に発達障害を対象とした「県立みなと高等学園」が開校します。高校にも500名くらいの対象の生徒がいると思いますので、この学園を中心に対応していきたいと思います。

ところで、個別の指導計画の策定状況や校内委員会の開催状況につきましては、学校によって取組に差があります。中身の充実については、今後検討していきたいと思います。

本部長 10年くらい前に海外研修で地方の高校に行きましたが、スクールカウンセラー室がありました。子供の実情を考えると自然な形だと思いましたが、日本の学校現場にはスクールカウンセラーが配置されていませんので、きちんと定数措置をして欲しいと思っています。高校授業料の無償化など、高校を取りまく環境は大きく変わってきてるので、そのことをいろんな場面で訴えていきたいと思っています。

委員 総合教育センターには、いじめや不登校等に対応する相談窓口があります。相談件数は、電話・来所ともに約800件ずつあり、その内容は深刻さを増しています。その実情を、皆様に知ってもらいたいと思います。

委員 本校は中高一貫校なので、高校生とその保護者にもスクールアドバイザーを活用してもらいましたが、大きな効果がありました。スクールアドバイザーも中高の子供・保護者の考え方の違いを把握でき、それぞれに的確な助言をしてくれました。

また、スクールアドバイザーを交えた中高合同の研修会において、発達段階による違いなどを議論し、お互いに認識を深めました。もしも、スクールアドバイザーに時間的余裕があるならば、臨時的に高校にも来てもらえれば大変有効だと思いました。さらに、必要に応じて近隣の中高の関係者が集り、子供達の悩みや不登校等の原因について情報交換ができれば、なおよいと思いました。

本部長 高校で不登校になる生徒は、小学校3・4年生でつまづいているケースが多いようですが、より早い段階で手当をすると、深刻にならないようです。

今、中学校の不登校生は、小学校の2倍以上いるそうですが、高校の場合は、それが中途退学につながるとともに、ひいては将来の進路に結びつく恐れがあります。各校にスクールアドバイザーを配置するのは難しいですが、拠点校方式なども含め検討するとともに、高校を中退した者が再チャレンジできるシステムについても、検討する必要があると思います。

総合学科高校の充実について

委員 城西高校は平成9年度に、鳴門第一高校・新野高校は高校教育改革推進計画策定後に、総合学科が作られ各学区に1校ずつ設置されることになりましたが、そろそろその内容等を検証する時期が来ているかもしれません。

総合学科については、再編計画が関係してきます。鳴門第一高校の総合学科は、鳴門工業高校と一緒に、新たに工業系列を加えた5系列になって、より充実した総合学科として出発することになっています。また、新野高校は、今、地域協議会でいろいろと新しい学科についても考えていただけてますが、総合学科についても充実させる方向で検討していただいています。城西高校も、推進計画の期間中である平成16年度に、総合学科の系列を見直しリニューアルしましたが、今後の方向についても、学校と相談しながら考えていきたいと思っています。

高校再編による教育環境の整備について

委員 今後、最初に再編統合する鴨島商業高校と阿波農業高校において、耐震整備はもちろん、実習施設や体育施設の整備についても進めていきたいと思っています。財政厳しい折ですが、できるだけ教育環境の充実を図っていきたいと考えています。

職業教育の活性化について

委員

平成21年度には、中部に科学技術高校が開校し、西部に貞光工業高校、南部に阿南工業高校という3校体制で、工業教育が進んでいます。また、科学技術高校が中心となり、学校版マニフェストやスキルスタンダードなど新しい取組も行われています。

その他大きな学科としては農業科・商業科がございますが、まだそこまでの体制にはなっていないと思います。学科の枠を越えて総合的に活性化を図るためには、その基盤整備が必要になってくると思います。そこで、農業科・商業科ともにワーキンググループを作り、どういう方向で活性化するのが検討していただいているところです。また、高校再編にも関係していますが、一つの高校の中に複数の専門学科が存在する状況の中で、学科の枠を越えた取組についても考える必要が出てくると思います。

高校教育改革全般について

委員

平成14年度に策定された高校教育改革推進計画は、本年度をもって終了し、その進行管理は、教育振興計画に任されることとなりますが、高校教育改革は、これからもより一層進めていかなければなりません。

来年度以降もこの組織は続いていきますが、計画の進行管理が他に移りますので、「高校教育改革を推進した上での課題」や「今後の施策および方向性」などを、協議する時間がとれると考えています。現在、事務局を中心にした推進本部と校長先生を中心にした推進委員会がありますが、来年度はこの2つの組織を統合して、高校教育改革について事務局と学校がともに検討・協議する場にリニューアルできたらと考えています。具体的な形については、来年度早々にもつめていきたいと思いますので、引き続きご協力をお願いいたします。校長先生の数をもう少し増やし、テーマを絞りながらやっていけば、もっと議論が深まっていくと思います。

本部長

本県は8年間に渡って、たくさんの改革を進めてきましたが、以前にも増して状況の変化は、激しくなってきました。これからは新しい動きを踏まえて、じっくりと改革の成果を定着させていく必要があると思います。

さらに、現場を預かっている校長先生の気持ちも十分に理解しながら、我々は改革に取り組んでいかなければなりません。そこで、より多くの校長先生にこういう会議に参加してもらい、一緒に考えていきたいと思っています。

委員

大多数の生徒が、学業に部活動によく頑張っています。そういう子供達に、光が当たるような政策も検討してください。

我々は常々、「育てた子供達が故郷に帰ってきて、故郷が栄える一つの力になって欲しい。」と思っています。教育委員会はそういうスタンスで、現場にエールを送ってもらえたらと思います。

委員

高校教育改革の8年間の総括を冊子で見ましたが、関係者は本当によく頑張ったと思います。

しかし、新たな課題も見えてきましたので、お話のあったように5年先・10年先を見据えた計画を作成する必要性も感じました。

副本部長

学校は小・中・高に分かれていますので、長いスパンで子供達を見るということは大変難しいですが、それぞれが子供の教育の一部の期間を担っているという気持ちを持ち、高校教育改革と義務教育との関連を意識するということが、非常に重要だと思いました。

本部長

最近、8年前にはあまり意識されなかった「接続」の問題が、クローズアップされてきています。今、大学では、高校との接続に悩み、高大接続テストの導入なども話題に上っています。

同様に、高校と実社会との接続、幼少・小中・中高の接続などが、今後の研究課題になってくると思います。そこで、我々教員自身が、「接続」をしっかりと認識しなければなりませんので、研修の場で考える必要があると思います。

現在、高校への進学率は98%になっており、高校は小中と同質化してきています。高校と大学には少し距離がありますが、子供は小中高大と連続しているのです。高校を系統的に大学と中学の中間に位置づける必要があると思います。また、子供の発達段階に応じた順調な成長が期待できるように、先生方の意識もそうあって欲しいと思っています。

委員

我々は教育に携わっている者として、「子供が将来どう育っていくのか。」子供を中心に考えていかなければなりません。子供には立ち止まってやる時間も必要ですし、同時に、緻密な将来設計の中で引っ張っていく時間も必要です。

現在、財政的には厳しい状況ですが、教育は基本的にはお金をかけずにできるはずです。これからは、小学校・中学校・高校の連続性がポイントになると思いますので、そのあたりも勘案して、改革を進めていってほしいと思います。